文化財をたずねて No. 2

原小学校周辺の史跡めぐり

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6858）

須賀神社（有年原）

沼田蘭山先生碑

木虎谷２号墳

とんぼ塚

①須賀神社（有年原）

「北畠の荒神さん」と呼ばれ、寛政５年(1793)有年牟礼の八幡神社改築の古材を使って建てたと伝えられている。はじめは、有年原の北畠地内の４社を合祀したものであったが、後に有年原全村の荒神社を合祀したと言われている。拝殿前の玉垣に「昭和十三年(1938)」の銘があるが、昭和の「和」を「咏」と刻んでいる。本堂裏手の背後山地には、ハトカ茶畑遺跡や、ハトカ古墳群がある。

②沼田蘭山先生碑

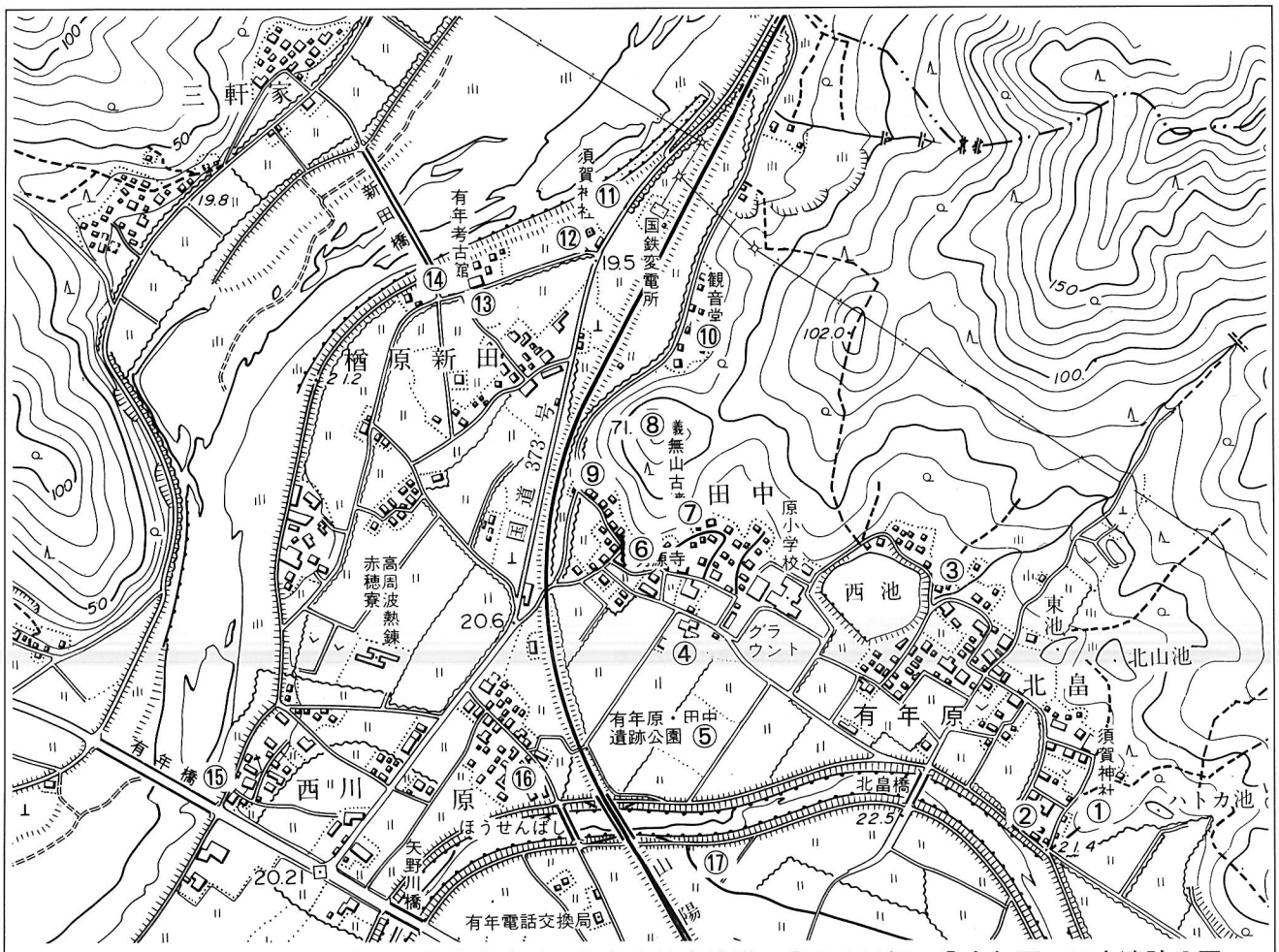
須賀神社南西の矢野川土手沿いにある沼田宅庭先に建てられている。先生は、学問・多芸に優れ、地元有年の人々のみならず、遠く船坂・三石・高田の人々にも源氏流活花・算盤・習字などを誠心誠意指導された。また、人格識見も高く社会的信望も厚かった。大正８年(1919)、門弟たちが先生の業績・徳を慕って、寿碑を建立した。碑文は当時、赤穂郡長であった古田庸によるものである。

③木虎谷古墳群

原小学校西にある西池の奥の谷を「木虎谷」と呼び、この谷の周囲に15基からなる木虎谷古墳群がある。県指定文化財〈平成２年(1990)３月20日指定〉の木虎谷２号墳は、墳丘の直径15.6m、高さ6.5mを測る円墳で、内部主体である両袖式の横穴式石室は、全長9.5m、幅2.2mを測り、市内最大のものである。玄室の奥には石棺の蓋となる石材が奥壁に残されている。出土遺物は不明であるが、上郡町に所在する鳳張１号墳と同様な構造をもつことから、６世紀前半に築造されたと考えられる。周辺の背後山地は、木虎谷遺跡、奥山遺跡、北畠北山遺跡、奥山古墳群、惣計谷古墳群など数多くの弥生時代の遺跡や、古墳が知られている。

④とんぼ塚

原幼稚園南の俗称「塚田」にあった。現在は田中児童遊園地に復元され、標柱が設置されている。昭和初期には、直径３～４m、高さ１mぐらいであったと伝えられているが、整備前は直径60cm、高さ30cmを残すだけとなっていた。秋になると旧赤穂郡内のとんぼが、この塚の中に入ると伝えられている（『赤穂の昔話』第１集）。その一方で、たたり説や、金塊説もあったが、今ではその所在や、伝承を知る人も少なくなっている。ほ場整備及び遊園地整備事業に伴って発掘調査を実施したが、塚からは何も出土せず、周辺から弥生時代の河川跡が確認された。河川跡からは、弥生土器・分銅形土製品・銅鐸形土製品・各種石器・初期須恵器・韓式土器・高床倉庫の柱材など貴重な数多くの遺物が出土した。



⑤有年原・田中遺跡

原小学校校地及びその南に広がる田圃の微高地上に立地する弥生時代中期(約2,100年前)～室町時代(約600年前)まで続く大規模な遺跡である。原小学校校舎新築工事に伴う発掘調査では、飛鳥・奈良時代の掘立柱建物跡群が検出され、円面硯(えんめんけん)・墨書(ぼくしょ)土器・フイゴ羽口などが出土していることから、これらの建物群が古代の役所的な施設であったと考えられている。また、ほ場整備事業に伴う発掘調査によって、弥生時代後期の大型墳丘墓(ふんきゅうぼ)が2基発見され、全国的に話題を呼んだ。特に1号墳丘墓は、幅5mの溝によって囲まれた直径18mの円形の墳丘墓で、東にはバチ状に開く陸橋(りっきょう)部、西には祭壇となる突出部を備えた全国でも稀な形をしたものである。墳丘墓の周溝から出土した大型の壷、器台(きだい)、高杯(たかつき)は葬送儀礼(そうそうぎれい)に使用された供献(きょうけん)土器であり、後に出現する特殊壷、特殊器台の祖形と見られ、墳丘墓とともに考古学史に残るものである。その他、遺跡からは弥生時代の木棺墓や、葬送儀礼に関わる祭祀土坑、弥生時代中・後期の竪穴住居跡群、古墳時代の竪穴住居跡群、飛鳥・奈良時代の掘立柱建物跡群などが検出されている。出土遺物には数多くの弥生土器のほか、各種石器、分銅形土製品、銅鐸形土製品、ガラス玉、古墳・奈良時代の土師器、須恵器などがある。また、平安時代の井戸跡からは、呪符木簡が出土している。墳丘墓の周囲は平成2年(1990)3月20日に、県指定文化財に指定され、

有年原・田中遺跡公園

平成７年(1995)には遺跡公園として整備された。

⑥源氏流活花と明源寺

室町幕府８代将軍足利義政が、康正２年(1456)京都の珠慶坊ら６人に命じ、54帖の花論を創案させ、『花伝抄』としたのが始まりである。その後、千葉家の先祖行胤が継承し、11世住職千葉胤綱（龍卜）は、大坂において源氏流活花の奥義を極め、江戸に出て『源氏活花記』を刊行するなどして活躍した。文化５年（1808）龍卜の死後、千葉龍子が継ぎ、次いで千葉龍弐、龍弐が再興して普及に努めた。この頃が当地における華道の最盛期であった。赤穂周辺の門人としては、柳田美郷、大島栄蔵、高田清兵衛らが有名である。境内には活花源氏流家本千葉龍弐先生の碑・地蔵・五輪塔がある。明源寺は、医王山験行寺（真言宗）にあったが、中世頃蟻無山のふもとに下山し、浄土真宗に改宗し創建された。

明源寺

⑦妙見堂

蟻無山南東ふもとの明源寺北東山すそ沿いにあるが、由来不詳である。元は明源寺の西にあった。本尊は約10cmの木像である。

⑧蟻無山古墳

明源寺裏山の蟻無山山頂(標高70.4m)に所在する直径52m、高さ７mの円墳である。南西に幅３m、長さ15mの造り出しをもち、帆立貝式古墳とも言える。内部主体は、未発掘のため不明であるが、かつては墳丘斜面に河原石の葺石を見ることができたらしい。古墳周囲からは円筒埴輪、形象埴輪、初期須恵器が採集されている。昭和50年(1975)３月１８日に県指定文化財に指定された。蟻無山のいわれは、古墳をつくる時、苛酷な労働をさせられている人々の姿を見かねた蟻たちが、この山から一匹もいなくなったことによる（『赤穂の昔話』第２集)。古墳の周囲には陪塚と考えられる２・３号墳が所在しており、これら古墳群から出土した遺物は有年考古館で展示されている。

蟻無山古墳

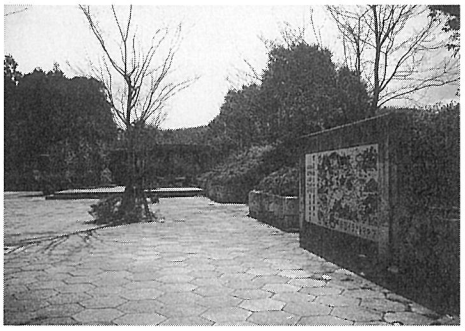
⑨三宅光能、光広、光政之墓

蟻無山の南西ふもとに寺子屋師匠の墓碑が並んでいる。三宅氏は三代にわたり寺子屋を経営し、名を「正訓堂」と称した。塾生は旧赤穂郡はもとより佐用郡からも来たと言われる。他に大島長直、平井貞介、山崎守義らの墓碑もある。

小鷹の観音堂

⑩小鷹の観音堂

蟻無山の北東にあり、赤穂城主浅野長直の建立と言われる。『播磨鑑』によると、岩に鷹の爪跡があるところから「小鷹」の名がついたと記されている。この付近は、「人畜共に行歩(往来)の及ばない所」と当時千種川が山裾まで迫っていたことを示している。一方、対岸の山を「大鷹」と呼ぶ。昔話では、富原に新田をつくるため、小鷹山の下で用水工事をしている時、川底から金色に輝く１寸８分の観音像が発見された。殿さまは、夢枕に現れた観音さまだと思い、普請奉行の植木新右衛門を通じて、原村の庄屋に観音堂を小鷹山に建てることを命じたと伝えている(『赤穂の昔話』第２集)。境内に宝篋印塔、地蔵、湧水井戸があり、井戸水は眼病や、イボとりによく効いたと言われている。



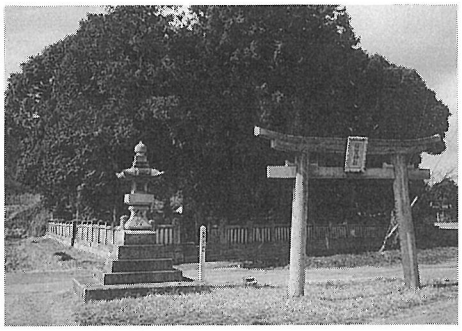
一里塚公園

⑪一里塚公園

国道373号線沿いの須賀神社(有年楢原新田)の北東隣にあり、平成２年(1990)４月に建設。国道沿線の市町観光ポイントを陶板タイルにはめ込んだ街道風イラストマップや、日時計、藤棚休憩舎が設置されており、千種川の瀬音と野草の群生などドライバーたちの憩の場となっている。

⑫須賀（荒）神社（有年楢原新田）

一里塚公園のそばに所在する。祭神は、稲倉魂命（うがのみたまのみこと）、素盞嗚命（すさのおのみこと）である。境内には、明治天皇聖徳碑がある。慶長14年(1609)の池田輝政時代の検地帳によれば、楢原新田は、八町一反余の田畑が開かれていたが、明治25年(1892)千種川未曽有の大氾濫で潰滅した。その復旧労働をしのぶ「くもじ祭り」が、境内で毎年７月に行われている。



須賀（荒）神社（有年楢原新田）

⑬松岡博士之像

有年考古館の東に建つ。碑文は市川博士による 424字におよぶ漢文銘である。松岡與之助（よのすけ）医学博士は、松岡兼助の長男として明治21年(1888)10月22日に生まれた。大正14年(1925)１月松岡眼科病院を創立し、医学研鑽に努めるかたわら地元青年の指導・育成や郷土史の探求を行った。

松岡博士之像

⑭有年考古館

財団法人有年考古館は、昭和25年(1950)10月松岡秀夫医学博士（松岡兼助の５男）によって設立された。考古資料を展示した本館と民俗資料を展示する別館からなっており、玄関は明治33年(1900)に建てられた旧有年村役場の一部を昭和52年(1977)に移築したものである。収蔵資料は、全て設立者の高い識見と深い学識でもって収集されたものであり、旧赤穂郡内の考古資料1,250点は、昭和63年(1988)３月30日に市指定文化財に指定された。設立者の自称した「日本最小の考古館」は、地域博物館としても、その意義と価値をもつものである。博士は明治37年(1904)２月13日に生まれ、長兄松岡與之助医博の死後、医業と共に郷土史研究なども受け継いだ。考古学、民俗学、部落史、地域史など幅広い学究で知られ、長兄と共に文化の向上や、文化財の保護のために尽力された。平成23年に赤穂市へ管理運営が委ねられ、赤穂市立有年考古館となる。
(TEL 0791-49-3488)

有年考古館

⑮亀の甲

千種川にかかる国道２号有年橋左岸上流約100m間の石畳を呼んだが、現在は千種川の河川改修でその面影はない。赤穂藩浅野時代の護岸兼高瀬舟の荷積み場で、城代家老大野九郎兵衛の陣頭指揮によるものと伝えられている。これより約50m上流の有年原・西川集会所前（以前は近くの堤防沿いの竹薮の中にあった）に明治25年(1892)千種川大洪水の碑「記念標」が建てられている。石標は高さ150cm、幅87cmを測り、裏には「明治四十二年(1909)」の建立年が刻まれている。

⑯寺子屋跡

寺子屋は「正訓堂」と称し、木生谷出身の三宅光能によって創設されたものである。光広・光政の三代にわたり、主として読書・習字などを指導した。学制発布により明治６年(1873)自宅を開放し、「時習（じしゅう）学校」と改めた。原小学校の前身として新校舎に移るまで使用されたが、昭和60年(1985)頃解体され消滅した。

⑰蛇淵（じゃぶち）の薬師石仏

矢野川改修時に現在の有年原河川敷公園内に移されたが、かつては少し上流にあった。「蛇淵の薬師さん」として、病気や怪我を治してくれるばかりでなく雨乞いの仏としても信仰された。言い伝えによると、矢野川の改修工事によって浅瀬となったが、かつて川は狭く蛇行しており、深淵となり不気味なほど深くなっていた。誰言うとなく龍蛇が住み着いていると言われ、村人は恐れ、あまり近寄らなかった。いつの頃か大洪水の後、川底の薬師石仏を見つけ引き揚げ、お祀りするようになった。干ばつのときに仏体を川の水で洗い、お祈りすると雨が降ると伝えられ、雨乞いの仏として信仰されている。(『赤穂の昔話』第２集)

調査協力者

井上　益雄・沼田　　覚・
平田一二(故)・松田　里司・
宮下　　斎・横山　博光